

みんなで作る里山プロジェクト

2025年1月23日
11
Episode.

あすなろ しぜん便り



原寸
博物誌

あすなろしぜん探検隊

菅生沼やあすなろの里の動植物をしぜん探検隊が主体となり、「自分の力」で調べ(調査し)、記録を重ねていく体験事業です。みんなの知識を集約しながら互いに勉強します。ステップ・バイ・ステップで大きなデータベースを作ることをめざします。

ツチノコ発見！(本当はフジの実：165mm)／畑山 純伶

虫



▲葉っぱを1枚1枚探す
(1月)



▲カブトムシ幼虫を
探して落ち葉の探索(2月)



▲今、何か動いたぞ(3月)



▲鍛えた目で小さな
生き物を探す(3月)

1月

●菅生沼ふれあい広場

1月11日(土)9:30~12:00 晴/強風/6℃

【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、川島智至、宮崎健介、萩柊和

1月18日(土)9:30~12:00 晴/弱風/3℃

【B班調査員】上山裕平、沢田明衣

【リーダーいずれも】坂入真史

観察した種

チョウ目

ゴマダラチョウ幼虫(越冬)A5 B5

クロツヤミノガ幼虫B2

キノカワガ成虫(越冬)B2

イラガ繭A1

ゴキブリ目

クロゴキブリ幼虫(越冬)A2B3

モリチャバネゴキブリ幼虫(越冬)AB±20

カマキリ目

コカマキリ卵A2B2

バッタ目

シブイロカヤキ成虫(越冬)A3B1

タンボコオロギ成虫(越冬)A1B3

ハサミムシ目

ヒゲシロハサミムシ幼虫(越冬)A2

コバネハサミムシ(越冬)B1

カメムシ目

シロナガヘリカメムシ成虫(越冬)A1

ツヤアオカメムシ成虫(越冬)A1

ヒメジュウジナガカメムシ成虫(越冬)A1

ホオズキカメムシ成虫(越冬)B2

ホソハリカメムシ成虫(越冬)B1

ヨコツナサシガメ成虫(越冬)AB±30

コウチュウ目

アオゴミムシの仲間成虫(越冬)A1

ヒメカメムシコテントウ成虫(越冬)A1

オオゴモクムシ成虫(越冬)A1

ナナホシテントウ成虫(越冬)B1葉上歩行

その他

ヒロヘリアオイラガ繭(抜け殻)A1B1

ウスタビガ繭(抜け殻)A2B1

ゴマダラチョウ繭(抜け殻)AB6



ゴマダラチョウ(幼)



ゴマダラチョウ(繭)



キノカワガ



シブイロカヤキ



ヨコツナサシガメ



▲朽木にはたくさんの
生き物が越冬
していた



▲地衣類の色に
そっくり！
キノカワガを発見！



▲息をこらして
幼虫探しに集中

リーダーのメモ

AB班共に目標のゴマダラチョウの越冬幼虫を観察できた。葉裏を1枚1枚めくったり、樹幹を探しながら個体数も記録した。よく似たオオムラサキは残念ながら発見ならなかったが、探検隊にとっては各回豊作の観察会となった(坂入)。

2月

●あすなろの里～あそびの森(腐葉土置き場)～動物園北側樹林

2月8日(土)9:30~12:00 晴/強風/5℃

【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、川島智至、宮崎健介、萩柊和

2月15日(土)9:30~12:00 晴/弱風/10℃

【B班調査員】上山裕平、沢田明衣、畑山純純、畑山純純

【リーダーいずれも】坂入真史

観察した種

チョウ目

ウスバフユシャク成虫♂A1灯火残

シモフリトゲエダシャク成虫♂A1B2灯火残

シロフフエダシャク成虫♂A1灯火残

キノカワガ成虫(越冬)A1樹幹静止

クロモンホソコヤガ成虫A1樹幹歩行

キタデハ成虫秋型B4飛翔

ウスベニスジナミシャクB1飛翔

ゴキブリ目

モリチャバネゴキブリ幼虫(越冬)B1

カマキリ目

ハラビロカマキリ卵B1

バッタ目

ケラ成虫(越冬)A1

アミメカゲロウ目

ヤマトヒメカゲロウ成虫B1飛翔

キバラコナカゲロウ繭A7

コウチュウ目

サトコミアシゴミムシシダマシ成虫(越冬)A1

コクワガタ♀成虫(越冬)A1

カブトムシ幼虫(越冬)

A♀26♂18 B♀19♂15

ハナムグリの子なま幼虫(越冬)A2B2

アオゴミムシ成虫(越冬)A1

ナナホシテントウ成虫B1葉上歩行

ハエ目

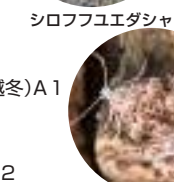
ハグロケバエ幼虫(越冬)B6



ウスバフユシャク



シロフフエダシャク



クロモンホソコヤガ



キバラコナカゲロウ



▲コナカゲロウの
繭発見！



▲1か所でこんなに
見つかったよ！



▲♂♀を見分けて
個体数を数える



▲落ち葉の
プールだぁ！

リーダーのメモ

カブトムシ幼虫の個体数を確認するため、園内の腐葉土置き場の中を掘り観察した。8cmのカブトムシの幼虫に比べハナムグリの仲間は4cmと大きさが異なる。研修センターの正門の灯火に残る蛾類や樹幹の繭など、この時期ならではのいきものくらしにもふれた(坂入)。

昆虫の先生から

変温動物の昆虫は活動できないので、昆虫を見つけるのは大変だったと思いますが、よく越冬場所をみつけて多くの種類を確認しましたね。どの動物も気温の大きな変動は生きる上での大きなストレスになります。近年、夏の気温上昇が問題になっていますが、実は冬期の気温上昇も昆虫にとっては影響を及ぼしているようです。南方系の昆虫が越冬できるようになる反面、乾燥化が進んで越冬中の昆虫などには悪い影響を及ぼしている感もあります。毎年冬の昆虫の変動も気温変動と関連付けてみていくのも興味深いところです。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/石塚 武彦



▲冬芽をさがそう(1月)



▲仲間と観察するって楽しい(1月)

植物



▲春の植物咲いていたよ(3月)



▲最終回の同定会はばっちりでした(3月)

1月

●水海道あすなろの里遊びの森

1月19日(日)9:30~12:00 曇/無風/2℃

【調査員】福田藍斗、川畑海翔

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司、長谷川としえ)

【同定】川田いつ子

観察した種(★印は希少種、○印は探検隊が撮影した植物)

アレチヌスビトハギ(実)

アメリカセンダングサ(実)

イヌガラシ(実)

オオジバシリ(ロゼット)

オオハナワラビ(胞子)

ガマ(種)

カラスウリ(実)

キリ(冬芽)

クコ(実)

セイタカアワダチソウ(種)

シンジュ(冬芽)○

セイヨウタンポポ(花)(種)

センダン(冬芽)○

センニンソウ(種)○

タネツケバナ(ロゼット)

タンキリマメ(種)

ヌスビトハギ(実)

ノゲシ(ロゼット)

ハリギリ(冬芽)○

ハンノキ(冬芽)

ヒメコウゾ(冬芽)

ヒメジョオン(ロゼット)

ヘクソカズラ(実)○

ホトケノザ(花)

マンリョウ(実)

ムラサキシキブ(冬芽)

メリケンカルカヤ(種)

ヤマノイモ(実)

ヤブコウジ○

ヤマジノホトトギス(種)

ヨシ(種)

植栽

アジサイ(冬芽)

ソメイヨシノ(冬芽)

ハナミズキ(冬芽)

ブルーベリー(冬芽)

ボタン(冬芽)

マユミ(冬芽)



ヤブコウジ

3月

●水海道あすなろの里遊びの森

3月1日(土)9:30~12:00 晴/無風/2℃

【調査員】福田藍斗

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司、長谷川としえ)

【同定】川田いつ子

観察した種(★印は希少種、○印は探検隊が撮影した植物)

アレチヌスビトハギ(実)

イノコヅチ(種)

ウラボシコグサ(ロゼット)

オオイヌノフグリ(花)○

オオハナワラビ(胞子)

オニノゲシ(花)

ガマ(種)

カントウタンポポ(花)

キュウリグサ(ロゼット)

コハコベ(花)○

セイタカアワダチソウ

センダン(冬芽)○

センニンソウ(種)

ミチタネツケバナ(花)(ロゼット)

ナズナ(花)(ロゼット)

ノゲシ(ロゼット)

ハリギリ(冬芽)

ハルジオン(花)(ロゼット)

ハンノキ(実)

ヒメオドリコソウ(花)

ヒメジョオン(ロゼット)

ヘクソカズラ(実)

ホトケノザ(花)○

ムラサキシキブ(葉)

モミジイチゴ(冬芽)○



▲木につく植物はどう違うんだろう？



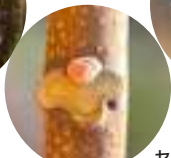
▲ハンノキの雄花・雌花が落ちていたよ



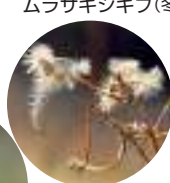
▲ロゼット見つけ！



シンジュ(冬芽)



センニンソウ



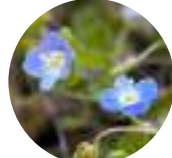
センダン(冬芽)



ハリギリ(冬芽)



ヘクソカズラ



オオイヌノフグリ



コハコベ



ホトケノザ



モミジイチゴ

11、12、1月とどんどん寒くなって今日は2℃。植物も春の準備をして冬芽や葉痕ができていて感心した。葉痕の形が木によってさまざまでもおもしろかった。木の皮のむけかたが、たてにむけるのとばらばらにむけるのがあってすごかった。常総市/川畑海翔さん
気温が高くなった時に、朝は咲いていなかったタンポポが咲いていた。太陽の力はすごいなと思った。春にさく植物がたくさんはえていた(ロゼット)。田んぼに水があってもおもしろかった。つくばみらい市/福田藍斗さん

ロゼットの植物がたくさんあった。春になったらどんな花が咲くのか楽しみです。日光があたるところにはもう花が咲いていた。もうすぐ春なんだなと思った。つくばみらい市/福田藍斗さん

リーダーのメモ

春の野草の芽は、青々としていたが花はほとんど見られなかった。しかし、ロゼットや冬芽の観察は充実していた。先月との違いも顕著で面白かった。(講師/川田いつ子)

リーダーのメモ

今回観察区域が川沿いから里山に変わり地域の違いが植生に大きくかわっていることを実感しました。一ヶ月の間隔では野草の変化に追いつかないこともあり、次年度は観察できなかった生育過程をぜひ見たいと思っています。また参加者全員が生育場所や植物の名前など詳しくなっていくのが分かり、継続していくことの大切を感じました(講師/川田いつ子)

2月

●菅生沼ふれあい広場～菅生沼第二調整池(キタミソウ観察会)

2月9日(日)9:30~12:00 晴/強風/6℃

【調査員】福田藍斗

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司)

【同定】坂入真史

観察した種(○印は探検隊が撮影した植物)

アメリカフワロ(葉)○

オオイヌノフグリ(花)○

オヤブジラミ(葉)○

オランダミナグサ(花)

カラシナ(葉)○

キタミソウ(花)○★

コバナキジムシロ(葉)

コハコベ(葉)

ツルズズメノカタビラ(花)

ツルマンネングサ(葉)

ナガバギシギシ(葉)

ナズナ(花)

ノイバラ(葉)

ノボロギク(花)(葉)(種)○

ホトケノザ(花)

ヤエムグラ(葉)

ヤハズエンドウ(葉)

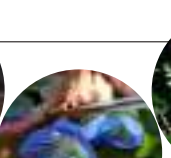
ヤブツバキ(花)



▲枯草の中に花を発見



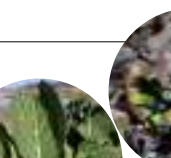
アメリカフワロ



オヤブジラミ



オオイヌノフグリ



カラシナ



ノボロギク

リーダーのメモ

身近な植物を観察した後にキタミソウを観察した(坂入真史)。



キタミソウ: ゴマノハグサ科の水草で高さ5センチほど。花径は2ミリから3ミリ程度の大きさでとても小さな植物。

熊本県や関東地方では、稲作のために春夏は水につかり、秋冬には陸地になるような用水路のはじなどに生える。陸地にある数ヶ月の間に発芽し、花が咲き種をつける性質があり、水生植物の進化を考える上で興味深い存在だとされている。

沢進一郎教授(熊本大学生物環境農学国際研究センター)によると、多くの動植物が細胞の中に染色体を2セットもつ「2倍体」に対して、キタミソウは倍の4セットある「4倍体」ということが海外の仲間との種の情報と照合してわかったとのこと(一般に、植物は染色体を倍にすることで、病害虫に強くなるなど環境適応能力が高くなることが知られている)。

環境省のレッドリストでも絶滅危惧種Ⅱ類に指定され、和名の由来になった北海道北見地方の生息地もすでに失われているとされている。

植物の先生から

観察が難しい冬の季節にもかかわらず、ていねいな調査によってたくさんの植物を記録することができました。2月は菅生沼調節池まで足を伸ばしたんですね。なかなか目にする機会のないキタミソウが確認できて良かったと思います。記事にもあるように、キタミソウは、半年近く水につかっているような特殊な環境に耐えて生育する植物です。こうした植物を守っていくためには、この特殊な環境を維持することが大切です。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/飯田 勝明

鳥



▲見えないけど鳥の気配がする！(1月)



▲風をよけて鳥も集まってる(2月)



▲カウンターを手に園内のカモを数える(3月)



▲天気も良いし快適な観察日和(3月)

1月

1月19日(日)9:45~15:30

晴/2℃/風の強さ:顔に風をかんじる/北

●水海道あすなろの里遊びの森~ふれあい橋

【調査員】坂田雪桜

【リーダー】坂入真史

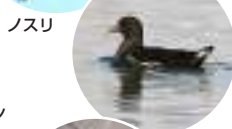
観察した種(出現順、括弧内は羽数):30種



シジュウカラ



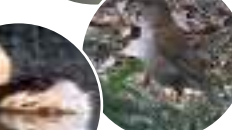
バン



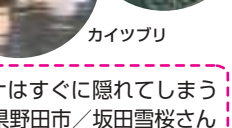
カイツブリ



モズ



シロハラ



カイツブリ

3月

3月1日(土)9:45~15:30

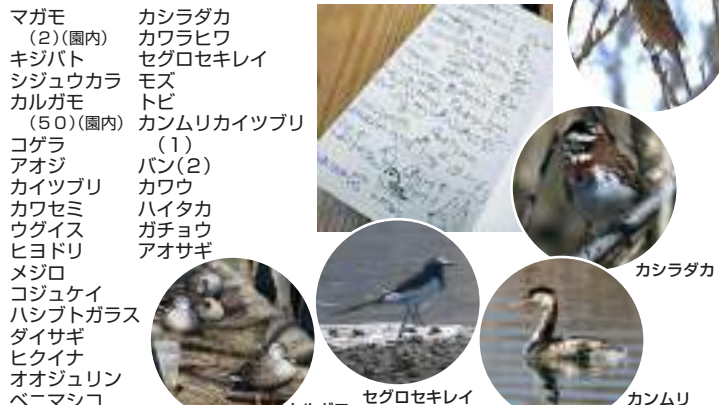
晴/10℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:北

●水海道あすなろの里遊びの森~ふれあい橋

【調査員】竹内棚、坂田雪桜

【リーダー】坂入真史

観察した種(出現順、括弧内は羽数):26種+外来種2種



シジュウカラ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

ノスリが空できもちよさそう。クイナとヒクイナはすぐに隠れてしまうけど、すみかがどんな場所かわかってきた。千葉県野田市/坂田雪桜さん

リーダーのメモ

鳥が出たとき、「あれは！」といって自力で動きを追うシーンがあった。思わず自分も双眼鏡をのぞく。このくりかえしが楽しかった。冬枯れのヨシ原から、「パチパチ」という小さな音が聞こえる。これは、茎の中にあるカイガラムシなどを食べるために鳥が茎を割る音。静かな中に確かに鳥がそばにいる気配を感じた(坂入)

カンムリカイツブリを初めてみた。ハイタカも見れてよかった。次はどろのところでコチドリをさがしたいです。埼玉県草加市/竹内棚さん

リーダーのメモ

ふれあい橋でベニマシコをしっかりと観察できた。菅生沼では出会いが少ない印象のカンムリカイツブリを記録できたのは収穫だった。道中出会った博物館ボランティアさんが興味深そうに探検隊の野帳を見て「こんなに観察できていてすごいね！」と驚く一面もあったり。今後も地道に記録を続けていきたい(坂入)

2月

2月9日(日)9:30~12:00

晴/4℃/風の強さ:紙や帽子が飛ばされる/北

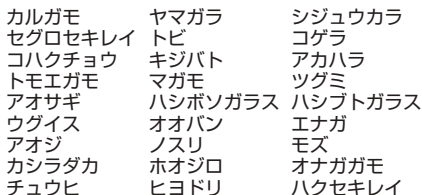
●菅生沼中沼反町開門~江川沿い散策路

【調査員】坂田雪桜、竹内棚

【リーダー】長谷川としえ

【講師】内田初江

観察した種(出現順):27種



シジュウカラ



▲反町開門にて



▲なんか飛んでる！

エナガ、シジュウカラ、コゲラと鳥がたくさん見れてかわいかった。埼玉県草加市/竹内棚さん



シジュウカラ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

カイツブリ

鳥の先生から

この冬はツグミがなかなか観察できませんでした。常総市のある関東だけでなく、もっと西の地域でも同じ傾向だったそうです。3月になってしばらくすると、茨城県内では畑や田んぼなどいつもの環境にいるツグミをたくさん見かけるようになりました。ツグミは渡り鳥ですが、同じ渡り鳥のハクチョウ類やカモ類、小鳥のジョウビタキなどはいつもと同じように観察できました。不思議です。鳥は長い距離を移動して生きる種もいて、そのようなことを意識して観察すると、広く見えてくるものがあるかもしれません。日本野鳥の会茨城県 副会長/内田 初江

協力: ミュージアムパーク茨城県自然博物館

日本野鳥の会茨城県

自然科学教育普及団体地球レール

有識者: 内田 初江/林 恵治/川田 いづ子/川村 宜央

写真協力: 藤井 悟司/坂田 育代/竹内 明子/長谷川としえ

調査員サポート: 保護者の皆様/藤井周

ボランティア: 自然観察同好会常総みどりの会

制作: gaia graphics

企画: (一財)水海道あすなろの里 自然教室担当・指導員 坂入 真史

発行日: 2025年4月1日